



2006 年度後期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果(概要 分析)

2007 年 4 月

法政大学 FD 推進センター

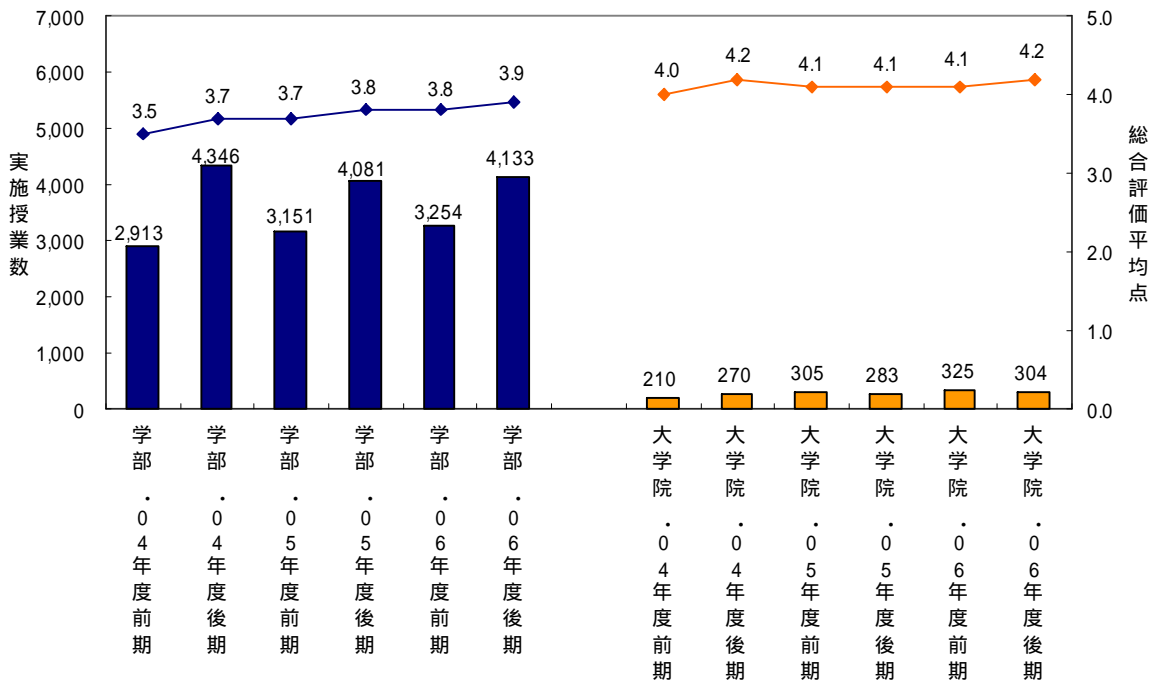
1.概要

法政大学では、2006 年 12 月 11 日から 2007 年 1 月 15 日まで(市ヶ谷・多摩地区学部の場合、他地区、大学院は若干異なる)、全学一斉に「学生による授業評価アンケート」を実施しました。これは、2004 年度の前期に全学 FD 推進委員会の下でスタートしてから 6 回目にあたります。

本アンケートの実施目的は、これまでと同様、学生が各授業をどのように見ているのかという観点からの情報収集と教員個々の気づきを目的とし、ひいては各授業の質の向上につなげること、学生の授業参加への意識を高めることです。

今回のアンケートの実施授業数は、学部は 4,133、大学院は 304 で、全学の実施率は約 85%でした(図表 1)。実施授業数は、学部、大学院とも前年度同期を上回っていますが、実施率はやや低下しています。一方、授業の総合評価(1~5 点の 5 段階評価)の平均点は、学部が 3.9 点、大学院が 4.2 点で、いずれも前回の結果より若干上がっています。なお、学部でも、授業毎の総合評価平均点の平均をとると 4.0 点に達します(後出図表 4 参照)。各質問項目のこれまで 6 回分の結果については、6~8 ページの< 付属統計表 > にまとめてありますので、ご覧下さい。

図表1 「学生による授業評価アンケート」の実施授業数、総合評価平均点の推移



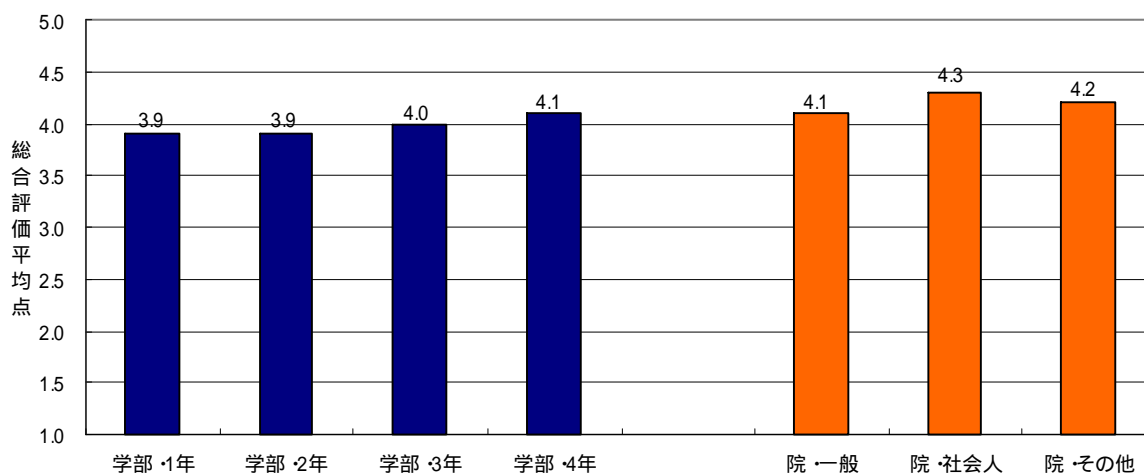
2. 学生および授業属性による総合評価平均点の傾向

授業の総合評価平均点(学部、大学院の間 10)は、学生や授業の属性によっていくつかの傾向が見られます。

まず、学部では1・2年生よりも3・4年生の方が満足度が若干高くなっています(図表2)。授業への出席率(問2)や積極的な取り組み(問3)については1・2年生が3・4年生を上回っていますが、授業履修の理由が「シラバスを見て授業内容に関心を持ったから」である割合(問1)、授業内容への興味(問5)、授業内容の理解(問6)は3・4年生が1・2年生を上回っているということが、その理由として考えられます。(なお、こうしたクロス集計の結果は本報告には掲載していませんが、FD推進センターのHPに掲載しています。)

つぎに、大学院では社会人院生の方が一般やその他の院生よりも満足度が高くなっています(図表2)。こうした傾向は、問10に限らず、全ての質問項目で同様に見られます。

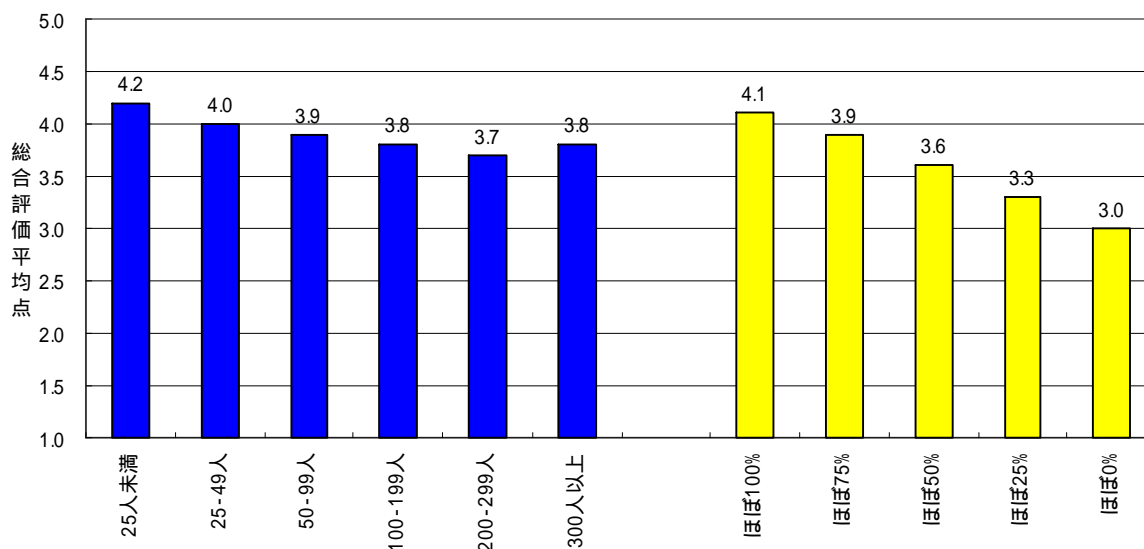
図表2 学部・学年別、大学院・入試経路別の総合評価平均点



また、学部授業では受講者数規模や出席率による違いも顕著です(図表3)。まず、受講者数規模別に見ると、50人未満かどうかで4点を上回るかどうかという大きな違いがあります。こうした受講者数規模による違いは、出席率(問2)、授業への積極的取り組み(問3)、授業内容への興味(問5)、授業内容の理解(問6)、教え方の熱意(問7)、教え方の工夫(問8)など他の質問項目でも一貫して見られます。

一方、出席率と満足度も比例しています。出席率が高いと授業内容がよく理解できて満足度が高くなるのか、逆に授業内容に興味があり満足しているから出席率が高くなるのか、あるいはその両方なのか、識別するのは困難です。ただ、授業の履修理由(問1)と出席率の関係をみると、「単位が取りやすいと思ったから」、「時間割の都合から」という履修理由の場合、出席率が低いという傾向がありますので、学生側の意識に問題の一端があると言えるでしょう。もっとも、あとの分析結果が示しているように、教員側の熱意や工夫が学生側の意欲や姿勢に影響するという側面があることも軽視すべきではありません。

図表3 学部・受講者数規模別および出席率別の総合評価平均点



3.授業毎の総合評価平均点の分布状況

以上の集計結果は、いずれも個々の学生の回答から直接、さまざまなクロス集計を行った結果に基づいています。一方、担当教員に対しては、それぞれの担当授業毎に集計した結果が知らされており、自分の担当授業が他の授業と比べてどのような位置づけにあるのか知りたいという要望がしばしばFD推進センターに寄せられてきました。そこで、前々回、前回に引き続き、授業毎に集計した総合評価点の分布がどうなっているか、集計してみました(図表4、図表5)。

まず、学部と大学院を比べると、大学院の方が分布が右に偏っており、4点以上の割合がかなり高いことがわかります(学部の59%に対し、大学院は81%)。また、全授業について集計したものと、アンケート回答者が10人以上の授業に限って集計したものを比べると、前者の方がばらつきが大きく、特に高得点授業の割合が高めに出る傾向が見られます。そこで、図表4の以下の項目(学部・授業種類別と学部講義・受講者数規模別)では、回答者が10人以上の授業に限って集計しています。

学部の授業種類別にみると、実技、演習といった科目で高得点授業の割合が高くなっています。特に、実技では実に89%の授業が4点以上です。これに対し、講義科目では4点以上の授業は45%と半分以下にとどまります。

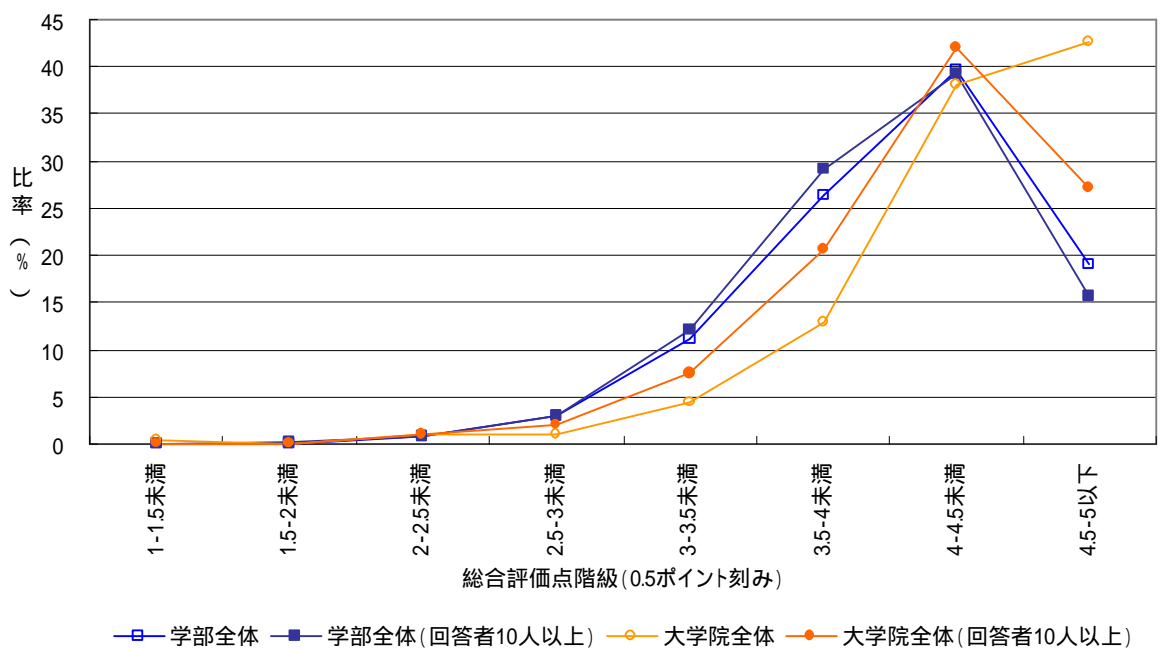
学部の講義について、さらに受講者数の規模別にみると、やはり受講者数の少ない授業ほど高得点授業の割合が高くなっています。具体的には、4点以上の授業の割合は、25人未満授業で72%、25-49人規模で52%と半数を超えており、以下、50-99人規模で45%、100-199人規模で35%、200-299人規模で26%、300人以上規模で38%となっています。さきほどの図表3の結果と同様、25人未満かどうか、そして50人未満かどうかでかなりの違いが見られます。

図表4 授業種類別の総合評価平均点の平均および分布
(授業毎に集計した結果を観測単位としたもの)

授業種類	授業数	平均	授業毎の平均点の分布割合(%)								合計
			1-1.5 未満	1.5-2 未満	2-2.5 未満	2.5-3 未満	3-3.5 未満	3.5-4 未満	4-4.5 未満	4.5-5 以下	
学部全体	4,145	4.03	-	0.0	0.7	2.9	11.1	26.4	39.7	19.1	100.0
同上(回答者 10人以上)	3,557	3.99	-	0.1	0.7	3.0	12.1	29.2	39.2	15.7	100.0
大学院全体	303	4.29	0.3	-	1.0	1.0	4.3	12.9	38.0	42.6	100.0
同上(回答者 10人以上)	107	4.14	-	-	0.9	1.9	7.5	20.6	42.1	27.1	100.0
<学部 授業種類別(回答者10人以上)>											
講義	1,625	3.87	-	0.1	0.9	3.7	15.4	35.3	37.3	7.4	100.0
演習	389	4.26	-	-	0.8	1.8	5.4	17.5	34.2	40.4	100.0
語学	1,210	3.98	-	0.1	0.7	2.7	11.7	28.7	42.7	13.4	100.0
実験	107	3.92	-	-	-	4.7	9.3	33.6	44.9	7.5	100.0
実技	225	4.41	-	-	-	1.3	2.7	6.7	40.4	48.9	100.0
<学部講義 受講者数規模別(回答者10人以上)>											
25人未満	134	4.18	-	-	0.7	1.5	3.0	23.1	41.8	29.9	100.0
25-49人	397	3.95	-	-	1.0	2.0	11.1	34.0	41.1	10.8	100.0
50-99人	476	3.86	-	-	0.8	2.9	17.9	33.6	39.3	5.5	100.0
100-199人	358	3.75	-	-	1.4	6.4	18.2	38.5	33.2	2.2	100.0
200-299人	124	3.68	-	-	-	5.6	25.8	42.7	24.2	1.6	100.0
300人以上	136	3.80	-	0.7	-	4.4	15.4	41.2	37.5	0.7	100.0

注:「総合評価平均点」とは、授業に対する総合的な満足度を尋ねた問10の結果を、授業毎に平均したもの(1~5点の5段階評価)。

図表5 学部・大学院別、授業毎の総合評価平均点の分布



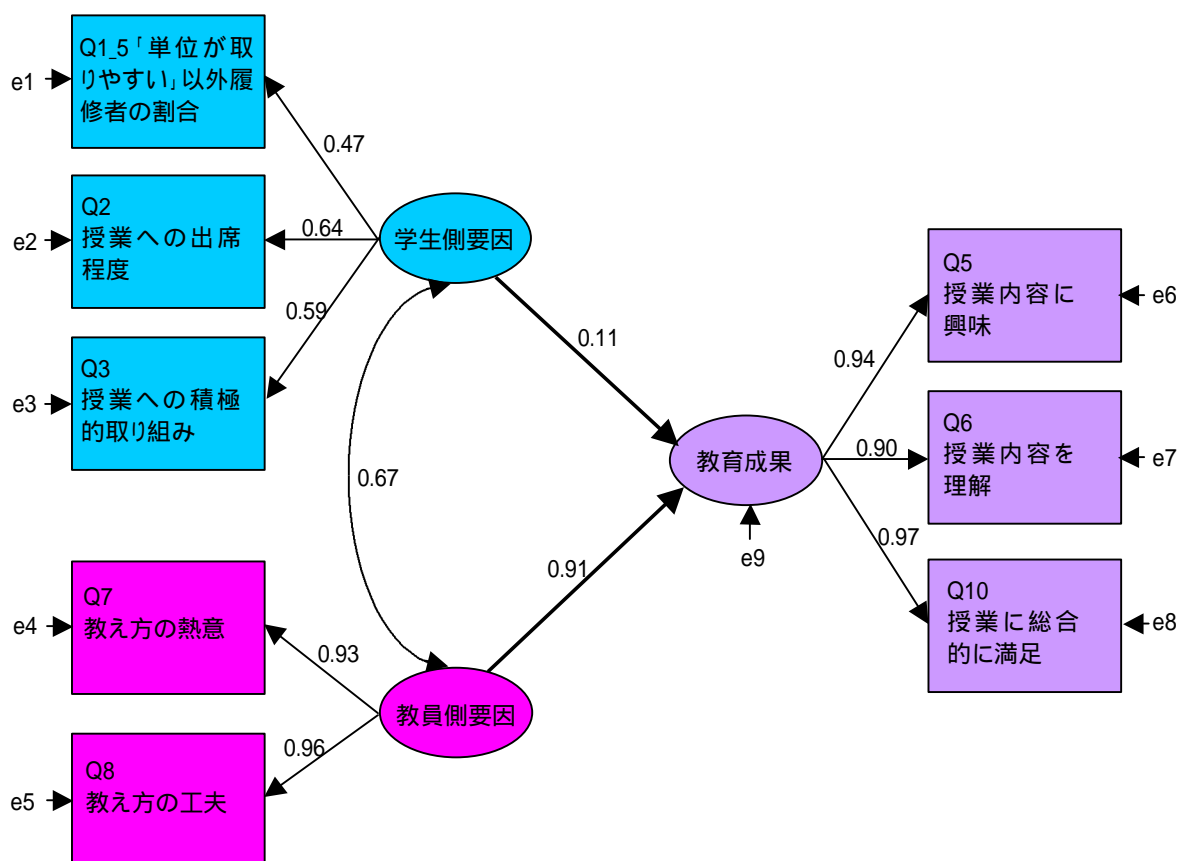
4. アンケート質問項目間の関係

最後に、さまざまな質問項目間の関係を見てみたいと思います。分析手法は共分散構造分析(構造方程式モデリングとも呼ばれる)で、2006年度前期の「全学集計結果(概要分析)」と同じモデルの推計を行いました(図表6)。

推計結果は、前期の結果と大差ありませんが、その要点は以下の通りです。まず、3つの構成概念(楕円で囲った変数)のそれぞれから各観測変数(四角で囲った変数)が影響を受けている程度を見てみましょう。「学生側要因」から3つの観測変数への係数値は0.5から0.6と必ずしも高くありませんが、「教員側要因」や「教育成果」からそれぞれの観測変数への係数値はいずれも0.9を超えており、これらの構成概念がそれぞれの観測変数によって十分表現されていると言えます。

つぎに、3つの潜在変数間の関係です。「学生側要因」から「教育成果」への係数値は0.1なのに対し、「教員側要因」から「教育成果」への係数値は0.9となっています。つまり、「教育成果」に直接大きく影響しているのは、「学生側要因」よりも「教員側要因」であり、「教員側要因」の改善はほぼストレートに「教育成果」の改善につながると言えます。最後に、「学生側要因」と「教員側要因」の相関係数は0.67とかなり高いので、「教員側要因」の改善によって「学生側要因」の改善も期待できます。

図表6 共分散構造分析による「教育成果」への影響要因の推計結果



- 注: 1) 使用データは、学部アンケートを授業毎に集計した結果を観測単位としたもので、サンプル数は4,148。
 2) Q1_5は、 $1 - [Q1 \text{で} \text{を選んだ学生数} / \text{回答学生数}]$ 。その他の観測変数は、いずれも各問(5段階評価)に対する授業毎の有効回答の平均値。
 3) 四角の中は観測変数、楕円の中は潜在変数、e1～e9は誤差変数。
 4) 単方向の矢印についた数字は標準化された係数推計値、両方向の矢印についた数字は相関係数。

< 付属統計表 > 全学集計結果の概要(2004 年度前期～2006 年度後期)

この授業を履修した理由を教えてください(複数回答可)。

区分	実施授業数	回答者数	1. 必須科目・選択必修科目だから	2. シラバスを見て授業内容に関心を持ったから	3. 先輩・友人に薦められたから	4. 時間の都合から	5. 単位がとりやすいと思ったから	6. その他	計
< 学部 >									
04 前期	2,913	122,462	40.6	24.8	4.0	22.2	6.3	3.1	100.0
04 後期	4,346	141,227	42.4	24.9	3.6	19.1	5.3	2.5	100.0
05 前期	3,151	123,621	49.4	26.8	5.0	23.6	7.2	3.4	100.0
05 後期	4,081	118,292	54.9	26.1	4.0	21.0	6.3	2.9	100.0
06 前期	3,254	117,845	51.7	26.3	4.8	22.8	7.3	3.2	100.0
06 後期	4,133	115,126	55.3	24.6	4.1	19.9	6.5	2.7	100.0

あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

区分	実施授業数	回答者数	5. ほぼ100%	4. ほぼ75%	3. ほぼ50%	2. ほぼ25%	1. ほぼ0%	無回答	計	有効回答の平均値
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	64.9	22.1	6.2	2.9	0.9	2.9	100.0	87.9
04 後期	4,346	141,227	57.2	28.0	7.6	2.9	0.8	3.4	100.0	85.7
05 前期	3,151	123,621	65.8	23.1	5.8	2.8	0.9	1.6	100.0	88.1
05 後期	4,081	118,292	60.7	29.0	6.9	2.4	0.7	0.3	100.0	86.8
06 前期	3,254	117,845	67.1	24.0	5.2	2.2	0.7	0.9	100.0	89.1
06 後期	4,133	115,126	59.4	29.7	6.5	2.2	0.7	1.4	100.0	86.8

区分	実施授業数	回答者数	回答選択肢 (単位:%)					無回答	計	有効回答の平均点
			5. 大いにそうである	4. そうである	3. どちらともいえない	2. そうでない	1. まったくそうでない			
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	28.4	41.9	17.3	4.2	0.4	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	30.3	43.1	13.0	2.6	0.2	10.8	100.0	4.1
05 前期	305	3,905	31.8	48.2	15.5	3.3	0.8	0.4	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	31.1	48.0	16.5	2.9	1.1	0.4	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.6	46.1	17.1	3.0	1.0	1.1	100.0	4.1
06 後期	304	2,897	37.3	44.3	14.2	2.3	0.8	1.1	100.0	4.2

あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	20.8	38.4	25.3	9.2	3.4	3.0	100.0	3.7
04 後期	4,346	141,227	22.5	39.5	23.7	8.0	2.8	3.5	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	24.2	40.6	23.1	7.4	2.8	1.9	100.0	3.8
05 後期	4,081	118,292	25.9	42.5	22.0	6.6	2.3	0.6	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	26.9	41.2	22.1	6.0	2.3	1.4	100.0	3.9
06 後期	4,133	115,126	28.0	41.0	20.4	5.6	2.1	2.9	100.0	3.9
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	28.4	41.9	17.3	4.2	0.4	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	30.3	43.1	13.0	2.6	0.2	10.8	100.0	4.1
05 前期	305	3,905	31.8	48.2	15.5	3.3	0.8	0.4	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	31.1	48.0	16.5	2.9	1.1	0.4	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.6	46.1	17.1	3.0	1.0	1.1	100.0	4.1
06 後期	304	2,897	37.3	44.3	14.2	2.3	0.8	1.1	100.0	4.2

この授業の内容に興味がありましたか。

< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	20.3	38.1	24.6	8.8	5.2	3.0	100.0	3.6
04 後期	4,346	141,227	22.6	39.4	23.1	7.4	4.1	3.4	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	24.1	39.8	22.7	7.2	4.2	1.9	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	26.7	41.6	21.4	6.3	3.4	0.7	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	26.7	42.3	20.9	5.9	3.1	1.0	100.0	3.8

06 後期	4,133	115,126	29.1	42.6	19.0	5.2	2.7	1.4	100.0	3.9
区分	実施授業 数	回答者数	回 答 選 択 肢 (単位:%)						計	有効回 答の平 均点
			5.大い にそうで ある	4.そ う である	3.ど ち らとも えない	2.そ う でない	1.ま っ たく そう でない	無回答		
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	34.4	40.3	13.0	3.2	1.5	7.7	100.0	4.1
04 後期	270	2,510	39.6	38.0	9.2	2.1	0.4	10.8	100.0	4.3
05 前期	305	3,905	39.7	42.8	13.1	2.8	1.0	0.5	100.0	4.2
05 後期	283	2,850	41.2	41.4	12.5	2.9	1.6	0.4	100.0	4.2
06 前期	325	4,070	37.0	46.4	12.0	2.7	1.1	0.8	100.0	4.2
06 後期	304	2,897	43.2	43.4	9.9	1.9	0.9	0.7	100.0	4.3
この授業の内容は理解できましたか。										
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	13.7	38.0	27.5	11.6	6.1	3.1	100.0	3.4
04 後期	4,346	141,227	16.8	39.4	26.2	9.6	4.5	3.5	100.0	3.6
05 前期	3,151	123,621	17.8	40.9	25.3	8.6	4.6	2.8	100.0	3.6
05 後期	4,081	118,292	20.7	43.0	23.8	7.3	3.7	1.4	100.0	3.7
06 前期	3,254	117,845	21.1	41.7	24.3	8.0	3.7	1.1	100.0	3.7
06 後期	4,133	115,126	24.1	42.1	22.4	6.8	3.1	1.4	100.0	3.8
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	19.0	44.5	20.0	6.7	2.1	7.7	100.0	3.8
04 後期	270	2,510	21.8	46.8	16.1	3.9	0.7	10.8	100.0	4.0
05 前期	305	3,905	22.2	49.9	20.9	5.1	1.3	0.6	100.0	3.9
05 後期	283	2,850	25.9	49.1	17.9	5.0	1.6	0.6	100.0	3.9
06 前期	325	4,070	21.3	48.5	18.8	4.7	1.6	5.0	100.0	3.9
06 後期	304	2,897	28.2	47.9	18.4	3.8	1.0	0.7	100.0	4.0
この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。										
< 学部 >										
04 前期	2,913	122,462	25.0	38.8	22.9	6.2	4.1	3.1	100.0	3.8
04 後期	4,346	141,227	27.5	39.9	21.3	4.9	3.0	3.5	100.0	3.9
05 前期	3,151	123,621	28.8	42.0	20.6	4.2	2.6	1.8	100.0	3.9
05 後期	4,081	118,292	32.3	43.3	18.4	3.5	2.0	0.5	100.0	4.0
06 前期	3,254	117,845	31.4	43.7	18.0	3.3	2.1	1.5	100.0	4.0
06 後期	4,133	115,126	34.4	43.5	16.1	2.8	1.7	1.5	100.0	4.1
< 大学院 >										
04 前期	210	2,566	36.6	40.1	11.9	2.5	1.2	7.8	100.0	4.2
04 後期	270	2,510	42.0	36.1	9.2	1.7	0.4	10.7	100.0	4.3
05 前期	305	3,905	44.5	40.5	11.0	2.4	1.1	0.6	100.0	4.3
05 後期	283	2,850	44.0	40.9	10.2	2.9	1.4	0.6	100.0	4.2
06 前期	325	4,070	40.7	42.5	12.5	2.3	1.1	1.1	100.0	4.2
06 後期	304	2,897	43.7	42.0	10.8	1.8	1.0	0.7	100.0	4.3
この授業の内容は、高度職業人を旨とするキャリア形成にとって意義が認められますか。										
< 大学院 >										
05 前期	305	3,905	32.3	37.4	15.3	2.4	1.7	10.8	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	34.6	37.5	13.3	2.6	2.1	9.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	33.8	44.2	16.2	3.2	1.5	1.2	100.0	4.1
06 後期	304	2,897	40.4	42.5	12.9	2.1	1.3	0.9	100.0	4.2
この授業で履修の専門分野に関する有用な知識が得られましたか。										
< 大学院 >										
05 前期	305	3,905	36.2	44.2	14.9	2.8	1.3	0.6	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	38.1	43.4	13.1	3.1	1.8	0.5	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.1	47.6	15.5	3.0	1.4	1.3	100.0	4.1
06 後期	304	2,897	37.5	45.2	12.9	2.4	1.0	1.1	100.0	4.2

区分	実施授業数	回答者数	回答選択肢 (単位:%)						計	有効回答の平均点
			5.大いに そうである ある	4.そう である	3.どち らともい えない	2.そう でない	1.まっ たくそう でない	無回答		
この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	17.0	33.7	29.6	10.3	6.2	3.2	100.0	3.5
04 後期	4,346	141,227	20.2	36.0	27.4	8.3	4.6	3.6	100.0	3.6
05 前期	3,151	123,621	22.6	36.5	26.4	8.1	4.6	1.8	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	26.3	38.6	24.2	6.8	3.6	0.6	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	25.1	39.1	23.8	6.7	3.7	1.6	100.0	3.8
06 後期	4,133	115,126	28.6	39.8	21.3	5.7	3.0	1.6	100.0	3.9
<大学院>										
04 前期	210	2,566	24.8	39.2	20.2	5.5	2.3	8.0	100.0	3.9
04 後期	270	2,510	30.8	38.6	15.3	3.1	1.3	10.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	30.2	43.4	18.5	4.4	2.1	1.3	100.0	4.0
06 後期	304	2,897	35.3	41.4	17.2	3.6	1.4	1.2	100.0	4.1
この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。										
<学部>										
04 前期	2,913	122,462	18.6	36.8	26.4	9.5	5.6	3.1	100.0	3.5
04 後期	4,346	141,227	21.7	38.9	24.3	7.4	4.2	3.5	100.0	3.7
05 前期	3,151	123,621	21.6	37.4	23.0	7.0	4.3	6.6	100.0	3.7
05 後期	4,081	118,292	25.4	39.9	20.9	5.9	3.5	4.5	100.0	3.8
06 前期	3,254	117,845	24.3	39.0	19.9	5.2	3.1	8.5	100.0	3.8
06 後期	4,133	115,126	27.9	39.2	17.8	4.4	2.4	8.2	100.0	3.9
<大学院>										
04 前期	210	2,566	28.6	40.8	15.9	4.3	2.5	7.8	100.0	4.0
04 後期	270	2,510	34.7	38.9	11.2	3.3	1.0	10.8	100.0	4.2
05 前期	305	3,905	36.6	42.1	12.8	3.7	1.8	3.0	100.0	4.1
05 後期	283	2,850	37.1	41.3	11.8	3.6	2.2	3.9	100.0	4.1
06 前期	325	4,070	31.0	41.8	12.9	3.5	1.6	9.3	100.0	4.1
06 後期	304	2,897	37.1	37.9	11.6	2.5	1.5	9.3	100.0	4.2

5.まとめ

以上の報告の要点は、つぎの通りです。

- ・ 授業の総合評価(1~5点の5段階評価)の平均点は、学部が3.9点、大学院が4.2点で、いずれも前回調査から若干向上した。ただし、アンケート実施授業割合はやや低下した。
- ・ 学部では1・2年生よりも3・4年生の方で満足度が高い。これは、3・4年生の方が授業内容への興味や理解度が高いためと考えられる。一方、大学院では社会人学生の満足度が高い。
- ・ 授業の属性別では、実技、演習科目や、受講者数の少ない授業(特に25人、あるいは50人未満の授業)で満足度が高い。
- ・ 「教育成果」に直接大きく影響しているのは、「学生側要因」ではなく「教員側要因」である。また、「教員側要因」と「学生側要因」の相関はかなり高いので、「教員側要因」の改善によって「学生側要因」の改善も期待できる。

- ・ 本報告に関するお問い合わせやご意見は、法政大学FD推進センターまでお寄せ下さい。
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
電話：03-3264-4285 / 9929 FAX：03-3264-4123 E-メール：fd-jimu@hosei.ac.jp
- ・ また、FD推進センターの活動については、<http://www.hosei.ac.jp/fd/> をご覧下さい。